

カトリック水島教会

～ 献堂 50 周年を記念して～



さあ、立て。

ここから出かけよう。 ヨハネ14章31節

Arise, let us go from here.

2014年10月26日

水島教会 50周年を迎えるにあたり

神の御旨を求める祈り



全能、永遠の神よ、
今、わたしたち水島教会は創立50周年を
迎えようとしています。
この50年間、わたしたちを育み、導き、
一人一人に与えてくださった
溢れるほどの恵みに感謝いたします。
神よ、
あなたがこれからの水島教会に
どのような御計画と御望みをお持ちなのか、
わたしたちに語ってください。
わたしたちは、その御旨に従って歩む力と導きを
あなたが与えてくださると固く信じています。
水島教会が、この地において
あなたの大いなる愛の証しとなり、
キリストの光をまわりに輝かせ、
あなたの栄光を現すことができますよう、
溢れるほどに聖霊をわたしたちに注いでください。
主イエス・キリストによって。



アーメン

水島の五十路寿ぐ天の川

— 水島教会50周年祝詞 —



カトリック大阪大司教区長

前田 万葉 大司教
(前カトリック広島司教区長)

水島教会創立50周年おめでとうございます。

50周年をちょうど午年^{うまとし}で迎え、ますます馬が合う教会共同体となられますように。また、地域社会とも馬が合い、開かれた教会として協調・宣教できますようにとお祈りいたします。

水島の五十路の春や馬が合ふ

わたしは、2013年9月29日の水島教会公式訪問・堅信式の折、前晩の親睦会で、将来の水島教会を熱く語り合う信徒の皆さまがたの様子を詠ませていただきました。

「新しき水島語る夜長かな」

また、堅信式の福音が、「金持ち」の滅びでしたから、金持ちではなく「神持ち」になって「平和の使徒」になろうと呼びかけ、

「受聖者よ神持ちになろう祈る秋」とも詠みました。

水島教会が、50周年を機に美しく輝きますように。そして、人々に夢と希望をいつまでも与え続けますようにと、祈りを込めて祝句を送ります。

水島の五十路寿ぐ天の川

教会創立50周年の祝い



岡山鳥取地区長

萩 喜代治神父

創立50周年、おめでとうございます。

水島教会は、1964年(昭和39年)淳心会の司祭たちにより、創立されました。その年は、東京オリンピック直後、高度成長期最中のときでした。当時の水島も三菱と共に歩み、成長してきた地域でした。人口増加の中、特に若い世代が増えて、汚れなきマリアのクラレチアン宣教修道女会が来られマリア幼稚園が創られ、教会と共に歩んで来られました。

最近の数年間は経済不況と共に、人口も減少してきました。

教会の担当は淳心会から、教区へと移管され、共同宣教司牧の中、広島教区、淳心会、釜山教区の司祭たちが関わる時代となってきました。

水島教会はマリア幼稚園と共に交流を持ち、バザーを開催するなどしてよい関係のなかで歩んでいます。こどもたちも多く、将来が楽しみな教会となっています。水島教会らしさを大切に、これからも発展していけますように祈っています。

信仰の歩み



淳心会日本地区長

ダニエル・クエンジ・

カンパタ神父



水島にあるキリストの教会共同体の皆様、創立50周年、おめでとうございます。50年間導いてくださった神様に賛美と感謝を捧げます。この50年間、カトリック水島教会の皆様は神様のいつくしみと憐れみを感じてきたでしょう。「神は、その独り子をお与えになったほどに、世を愛された。独り子を信じる者が一人も滅びないで、永遠の命を得るためである」(ヨハネ3:16)

神様は皆様を愛してきました。神様は愛です。「わたしたちが神を愛したのではなく、神がわたしたちを愛して、わたしたちの罪を償ういけにえとして、御子をお遣わしになりました。ここに愛があります」(1ヨハネ4:10) イエス・キリストを通してその愛を示してくださいました。

水島にあるキリストの教会共同体の皆様一人一人は何を大事にして歩んできましたか。自分の信仰を養うために、何を糧としてきたでしょうか。キリストの初代教会の信徒達は信仰を養うために「使徒の教え、相互の交わり、パンを裂くこと、祈ることに熱心であった」(使徒言行録2:42) ①使徒の教え。使徒達がイエス様から受けた教えを生活の規範としました。「みことばの食卓」②相互の交わり。共同体、同じ信仰の仲間達との交わりを信仰の歩みの支えとして大事にした。③パンを裂くこと。イエスの命に与る。「イエスの豊かさに与る食卓です」。④祈ること。神様とのかかわりを大事にしました。

これから水島にあるキリストの教会共同体の歩みを豊かにするためにキリストの初代教会に倣って豊かに歩み続けることができますように、祈っています。主の平和。

カトリック水島教会

創立50周年を記念して

汚れなきマリアの

クラレチアン宣教師道女会

マリア幼稚園園長

若林公代



カトリック水島教会創立50周年おめでとうございます。

あなたの目には千年も過ぎ去った昨日のごとく、

また 夜警のひと時にすぎない。(詩編90:4)

水島教会との出会いは、1979年4月の初誓願後に、初めて支部の倉敷共同体に派遣された若い頃です。三年前、再び倉敷共同体に派遣されましたが、その頃小学生であった子ども達がすっかり成人し、素敵なお父さん、お母さんになられておられるのを見ると、時の流れの早さを改めて感じております。

「ジスターはあの頃、ギターを弾いて一緒に歌っていましたネ」と覚えていて下さった方もおられました。当時の水島教会は若い家族の方々、青年や子ども達がたくさんおり、教会は活気にあふれていました。また岡山市にある「成徳学園」(看護院)へ定期的に学校訪問をしました。夏休みには、事情で家に帰れない三人の女子中学生を、一週間修道院で預かり楽しく過ごしたこともありました。教会学校では宿泊、ミカン狩り遠足など一年の短い期間でしたが、とても楽しく充実した日々を過ごさせて頂きました。

時は過ぎ、世界も日本も、社会も、教会も大きく変わりました。しかし聖書にある通り「イエス・キリストは、昨日も今日も、また永遠に変わることのない方」です。状況は変化していても、神さまによって、神の似姿に創造された人間の本质は変わらないと思います。いつになっても、人々が最も必要としていることは「喜び」であり、真の喜びは神と人々とのつながり、関わり、出会いではないでしょうか。水島教会の新たな50年への出発、教会がこの地域の中で、「人と人との、出会いの喜びの場」として、人々のつながりの場となれますように。また信徒の方々のご家庭において、信仰が日々の生活を通して継承されていきますように、共に祈り、協力し、歩んでまいりたいと思っております。神さまの豊かな祝福を願いつつ。

カトリック水島教会史

西暦	和暦	出来事
1961	昭36	土山氏宅で家庭ミサ始まる (スケルース神父)
1964	昭39	献堂式 10月25日
1965	昭40	JOC(カトリック青年労働者連盟) 発足
1967	昭42	キリスト教一致祈祷集会 始まる
1968	昭43	マリア幼稚園開園
1969	昭44	納骨堂 聖堂内に完成
		友愛セーブル 始まる
1970	昭45	沖縄ハンセン病患者のための街頭募金
1971	昭46	水島・倉敷・津山合同サマーキャンプ 於 奥津町羽出小学校
		曾野綾子氏・八代静一氏の講演会 主催 YUB(青年会)
1972	昭47	新聖堂 献堂式
		中高生の集い 始まる
1972	昭48	YBU(青年会) 夏キャンプ
		西アフリカ干ばつ救援チャリティーバザー
		広島教区50周年記念祝賀ミサ参列 (信徒大会にて論文発表 森田史雄氏)



スメット神父



マリア幼稚園の定礎式



土山家での最後のミサ



聖堂の棟上げ



献堂ミサ



献堂時の教会全景

1997	1995	1994		1993	1991	1988	1986	1985	1984	1981	1978	1976	1975	1974	
平9	平7	平6		平5	平3	昭63	昭61	昭60	昭59	昭56	昭53	昭51	昭50	昭49	
倉敷ブロック教会学校合宿	教会墓地祝別式(竜の口国際霊園) 故古川松枝氏寄贈	献堂30周年記念祭		倉敷ブロック教会学校クリスマス会 始まる	倉敷ブロック共同宣教司牧開始	教会前の空地を駐車場として購入	女性侍者誕生	クリスマス用聖家族像、ボサール神父の 姉上様より寄贈	司祭館・信徒館完成	三末篤実司教叙階式	献堂20周年記念祭	司祭館の改修工事	ルルド製作	木像マリア除幕式(石松豊秋氏より寄贈)	献堂10周年記念祭
										教皇ヨハネ・パウロ2世 広島訪問					



バスチアン神父



セルク神父



ボサール神父



ブラッセル神父



レミ神父



デгент神父



新聖堂 献堂ミサ



新聖堂 献堂式の集合写真



ボサール神父と聖家族像



教会墓地祝別式

西暦	和暦
1999	平11
2000	平12
2001	平13
2002	平14
2003	平15
2004	平16

聖フランシスコ・ザビエルの聖腕が
 倉敷ブロックへ
 聖体奉仕者誕生（4名）
 JOC再発足「青年の家」オープン
 集会祭儀 始まる
 ふれあい夏祭り 始まる
アメリカ同時多発テロ
 アムネスティ・インターナショナル加入
 倉敷ブロック黙想会 森一弘司教指導
 倉敷ブロック教会ニュース 創刊
 キリスト教一致祈祷集会 初合同ミサ
 イラク軍事攻撃反対の平和広島集会参加
 水島地区平和を祈るローソク行列
 庭をアスファルト舗装、ルルドの移設
 喫茶室「エスポール」オープン
 岡山鳥取地区信徒養成講座 開始



ムツエ神父



スクルース神父



ムトンボ神父



西江神父



ふれあい夏祭り



サビエル聖腕、来日（倉敷教会）



アムネスティに加入



倉敷ブロック黙想会（玉島教会）

2014	2013	2012	2011	2009	2008	2007	2006	2005									
平26	平25	平24	平23	平21	平20	平19	平18	平17									
献堂50周年記念式典	前田万葉司教、大阪教区大司教着座式	仁豊野サマーキャンプ	巡礼（福山教会、ロザリオ教会、廿日市教会）	ダミアンの輪 ガイドヘルプ講座・交流会	献堂50周年記念行事実行委員会発足	聖堂内装改修工事	スマトラ沖津波被災者支援街頭募金 （倉敷駅前で日キ教団倉敷水島教会と合同）	ブレイズ司教叙階式 於 倉敷教会	森田健児神父（水島教会出身） 当教会で初ミサ	シスター猪熊直美（水島教会出身）終生誓願式 於 西宮カレルメル会修道院	映画会 始まる	倉敷ブロック国際ミサ始まる 於 玉島教会	世界祈祷日 水島地区四教会合同祈りの集い始まる	前田万葉司教叙階式	第一回チャリティイー・コンサート 守屋美枝子氏・互井野文絵氏	教会墓地改装（竜の口国際霊園）	教皇ヨハネ・パウロ2世 帰天



金神父



李神父



ギャリー神父



ジェロム神父



フレデリック神父



ハルト神父



野中神父



パトリック神父



ブレイズ神父



レネ神父



倉敷ブロック国際ミサ



シスター猪熊直美の終生誓願式



聖堂内椅子の補修



森田健児神父、初ミサ（札幌教区・北一条教会）

1964年〜1973年

初代主任司祭
淳心会

シリル・スメット神父

水島での宣教



完成しました。10月25日、司教代理の丸川悟郎神父様のご臨席を得て、私は献堂式で、はじめての日本語ミサを捧げました。

●水島教会での九年間はいかがでしたか？

受洗者は多く、私の大きな喜びでした。私は教会の中にはいるのではなく、よく外に出かけました。ある時、私のオートバイの調子が悪く、オートバイ屋さんに持って行きました。店主が表でオートバイを吹かしていると、そこへ通りかかった婦人の足袋にオートバイのススが落ちて汚れ、私はあわてて謝りました。この出会いから婦人の家族全員が教会を訪ねて来られ、教理を学び、洗礼を受けられたということもありました。「犬も歩けば棒にあたる」ことわざ通りですね。

教会には、長崎から来ている信徒が多く、とても家庭的でした。

●赴任中、大切にされたことは何でしょうか？

司祭は皆さんに奉仕するために存在しています。司牧と宣教は同じだと考えています。ひとりひとりを大切に、強制はしない。信徒と共に働きました。転入者がある時は、その家族を訪問し、教会へ迎え入れました。

地域の人たちを対象に外に向けた活動も大事にしました。版画やアイコンの展示会、講演会の開催、ワッフルやパンケーキを焼いたこともあります。

●水島教会にメッセージをお願いします。

基本的にはこの地区にキリスト者を増やし、この地に合ったキリスト教共同体として生き生きと活動して下さい。キリスト教的証をする教会を期待します。

●スメット神父様は今年9月に司祭叙階60周年を迎えられました。ダイヤモンド祝、おめでとうございます。日本での宣教に、ご自分の人生の殆どを捧げて下さっていることに心から感謝いたします。

シリル・スメット神父

ベルギー・フランダース出身。
1929年生まれ。1954年司祭叙階。
翌1955年(昭和30年)二月月の船旅を経て来日。



ワッフルを焼くスメット神父



ピアフラ救援募金

1989年〜1991年

淳心会 フランシスコ・セルク神父

教会はイエスの愛の証



●赴任された当時の様子を教えてください。

昭和24年、来日当時の日本は、とても貧しく大変な時期でした。水島に赴任したのは昭和64年でした。わずか二年半ですが、水島のよい空気を味わうことができました。そして、その間、聖堂と司祭館を繋ぐ階段の設置や、駐車場の土地の購入など教会の整備を充実させました。

また、川崎製鉄（当時）で働いていた三〇人ほどのフィリピン人の労働者のために、信徒と協力して自転車をプレゼントしました。

●水島教会にメッセージをお願いします。

イエスの精神に生き、周囲の人の支えとなることです。つまり、信徒がイエスの生き方を模範として周囲の人々に接することが、イエスの精神を自然と広めることに繋がります。

教会はイエスの愛の証であり、互いに一致し、真の友達となるのが大切だと思います。

また、教会は時代とともに変化し、変わらなければいけません。これまで、ミサに与ることが大切とされてきました。しかし、ミサは基準ではなく、栄養であり、私たちはイエスのようにイエスとともに生きることが最も大切です。

私たちの生き方とは神を大切に考えること。つまり、神は父であり、愛であり、全宇宙を創造された方です。私たちは神と一致し、神が創られた

すべてのものを大切にしなければいけません。私たちの生き方によって周りの人に影響を与えることが大切です。

〈信徒の思ひ出〉

風のようにやって来て、風のように去って行かれたセルク神父様。赴任期間は短かったけれど、決断が速く、水島教会に大きな足跡を残して下さいました。その一つが、今は無くてはならない駐車場です。又、当時はまだ珍しかったパソコンを使って、教会の会計処理を教えてくださいました。家庭訪問にもよく一緒にしました。

ご兄弟十人の内、五人が司祭・修道者になられているとのこと。やはり信仰は家庭からですね。

お誕生日の10月4日にちなんで104歳まで生きるとおっしゃっている神父様、いつまでもお健やかに！



赴任当時



鶴島巡礼

フランシスコ・セルク神父

ベルギー・フランダース出身。

1924年10月4日生まれ。

1948年司祭叙階。翌1949年（昭和24年）来日。

1993年～2003年

淳心会 ヨハネ・スクルース神父

水島教会に行くのは楽しかった

●日本に來られた経緯は？

中国に宣教に行く予定でしたが、中国の国内事情の変化のため中国へは行けなくなり、1958年（昭和33年）に日本に來ました。中国語の簡単な読み書きはできるようになっていましたけれど。日本語は仁豊野（姫路市）で勉強しました。

●水島教会での思い出を教えてください。

1961年、教会堂はまだ建設されていませんでしたから、1963年クリスマスまでは月に一回、倉敷教会から水島へミサのために通いました。当時は信徒の家でミサをしていたのです。

1993年（平成5年）に共同宣教師牧になつてからは、玉島から協力司祭として毎月、水島教会へミサのために行きました。

水島教会の信者さんに会うのは、楽



しかった。私は車を運転しないので、玉島に近い石井さんが毎回、玉島教会まで迎えに来てくれました。

ヨハネ・スクルース神父

オランダ出身。1925年生まれ。1952年司祭叙階。1958年（昭和33年）来日。1961年3月、倉敷教会に赴任。1993年から十年間、倉敷ブロックの司祭チームメンバーとして玉島教会に居住。

淳心会 (CICM) とは

ラテン語 Congregatio Immaculati Cordis Mariae <C.I.C.M.>（聖母マリアの汚れなき御心会）

1862年にベルギー人テオフィル・ヴェルビスト神父によって首都ブリュッセル郊外のスクートの地で創立されました。主に中国宣教のために設立された男子宣教修道会です。日本では1948年からベルギー人・オランダ人神父によって宣教活動が始まりました。現在ではコンゴ民主共和国・フィリピン・インドネシア・日本出身の神父も含め大阪・東京・広島・仙台教区で福音宣教活動をしています。また『聖書と典礼』『こじか』でおなじみのオリエンズ宗教研究所を運営しています。

<資料「淳心会—日本における50年の歩み」
富樫 馬一編著、J.ブラッセル校閲、ヨハネ・スクルース発行、1998年発行>

〈信徒の思い出〉

日本のカトリック信徒の歴史に通じておられ、鶴島巡礼では詳しく説明して下さいました。

古い資料を調査し「カトリック玉島教会百年史」（1999年発行）を著わされました。その造詣の深さに驚かされます。



ボサール神父を囲んで



ブラッセル神父と広島教区信徒大会

2000年～2007年

淳心会 ムッシェ・フランソワ神父

忘れられない水島教会



●水島教会での八年間はいかがでしたか？

私の司祭職の中でも水島に特別な愛着があります。忘れられない教会です。水島教会での八年間はわたしにとって養成の場になりました。

私たちキリスト者の目的は神の国を目指すことです。どんな人も大切に、ひとりひとは神の顔なのです。

水島教会は「うちの教会」ではない「みんなの教会」です。新しい人を快く受け容れていると感じました。これは水島教会の良いところでしょう。「エスボール」（喫茶室）は幼稚園のお母さん達との触れ合いを目的に解放しました。

●赴任中、大切にされたことは何でしょうか？

人に出会うこと、出かけることを今でも大切にしています。

水島教会はバザーや夏まつりで町内会の人と交流していますね。覚えてい



近所の方々と平和行進

ますか？平和デモに近所の人も参加してくれたこと。私は町内会の委員になりました。また水島協同病院の医療倫理委員会のメンバーにもなり、つながりができました。私が推薦した信徒の一人がスピリチュアルケアワーカーとしてその病院で働いたことは社会に開かれた教会の活動として大変良かったと思っています。

プロテスタント教会とのつながりも良いですね。日曜礼拝をともにすることは珍しい。毎年交互に日曜日に相手の教会に行つて、共に礼拝やミサを捧げることは深い意味を持っています。

●水島教会で再始動されたJOC（カトリック青年労働者連盟）の青年たちとの思い出は？

青年を条件なしに水島教会が受け入れてくれたことに感謝しています。お陰で教会では青年たちは自由に活動することができました。

●これからの水島教会にメッセージをお願いします。

水島教会はもうすでに神の国の姿を表しています。

水島教会の信徒数は少ないけれども、社会に開かれた大きな教会であることに大切にしてもらいたい。水島教会の持っている良いところを大切にしていつまでも前向きに進んで下さい。水島教会は忘れられない教会です。

ムッシェ・フランソワ神父

ベルギー出身。1932年生まれ。1958年司祭叙階。1960年（昭和35年）来日。



教会学校での餅つき

神に感謝

カトリック水島教会
信徒会長

夏井 玲子



本年は広島教区100周年に向かって、平和をベースに「新しい福音宣教」の教区テーマが示された誠に意義深い年です。この年に水島教会が50周年を無事に迎えられたことを心から神さまに感謝いたします。

50周年記念行事の実行委員を中心に、老いも若きも共に心を一つにして今日を迎えることは、私にとって何よりの喜びです。

振り返ってみれば、私は水島教会の献堂五年目の1969年に主人と共にスメット神父様より洗礼を受けました。その時の私は、まだ何もわかりませんでした。ただ、信徒の皆さまが私たちを祝福し、受け入れ、笑顔で心からお祝いしてくださっていることが、すぐに理解できました。

そして、まるで幼児洗礼のように、神父様のことばに従い『はい、信じます』と素直に答えたことを思い出します。

淳心会によって建てられた水島教会は、当初、資金援助がありました。教会は自立に向かって変化をして行く途上にあり、特に、教会の維持費を集めることは大切な務めでした。神父様はいろいろと指導してくださいました。様々な困難はありましたが、神さまの導きによって、今日の教会になつてまいりました。

多岐にわたる教会の活動を通して、心からの献金や募金をはじめ、困っている人々に送金することで共同体の人たちの心が豊かになつていくことを願っています。

混沌とした時代にあつて、信仰の継承は難しくなっています。50周年を迎えた今日、本当に私たちはキリスト者としてどうあるべきでしょうか。個々の価値観を超えて、どのように一致して教会の未来に向かって進むべきかを真剣に考え、新たに発信したいと思っています。

信徒から寄せられた声

カトリック 水島教会と私

(二部抜粋。全文は教会ホームページ「カトリック水島教会50周年記念誌」に掲載されています)

■ブラッセル神父様(1973年から十四年間、第二代主任司祭)は、2010年、90歳で帰天されました。引退後は仁豊野にお住まいでした。皆で訪問した折は、擦り切れた信徒名簿を取り出され、「この人はどうしていますか?あの人は?」と毎回尋ねられました。いつまでも水島教会に心を寄せて下さっていたことが印象に残っています。(RN)

■ブラッセル神父様は子どもの頃は、怖い神父様と思っていました。でも大人になって接するうちに、その優しさがわかるようになりました。(MH)

■教会献堂時は、臨海鉄道(当時は専鉄)の弥生駅周辺の東側には人家はほとんど無く、畑地が一面に広がり、建築中の教会を駅から見ることができました。よく見ると建物の中で大きな体に汗をいっぱいかいて、一生懸命に働いている人がいます。その人がスメット神父様です。神父様のご指導の下、倉敷教会の先輩JOC(カトリック青年労働者連盟)の力を借りながら水島JOCを設立できたこと、またほどなくしてJOCから青年男女への呼びかけで「杉の子会」を立ち上げ神父様を囲み皆で遊びまわったこと。いろいろな楽しかったことを思い出します。(MY)

■献堂50周年記念の準備をする中で、今まで知らなかった水島教会の半世紀を辿ることができたのは私にとつて、とても嬉しいことでした。きつとどの教会も、わが水島教会と同じく、その建設には神父様方をはじめ、多くの先輩信徒の方々熱い思いと奉仕があったのです。転勤族だった私は見知らぬ新しい土地での生活を、カトリック教会探しから始めた

ものでした。私の住んだ町のどこにでもカトリック教会があったことに感謝！水島教会が私の最後の教会となるでしょう。これからも意見の衝突はあるでしょうが、それを避けるのではなく、真摯な対話と祈りを通して違いを乗り越え、心を一つにして、神様の愛を証する教会となるよう努めていきたいとの思いを新たにしています。(TM)

1999年の春、受洗しました。その頃、聖書は難しいばかりでした。自らの貧しさを肝に銘じる日々を過ごす内に、眠っていた魂が目覚めていくようでした。いつの間にか、聖書の場面が身近な光景と重なっていました。希望を見つけることは、喜びです。

私たち家族は、ずっと共同体の温かさに包まれて来ました。神さまは、人を通して働きかけてくださいます。お互いに掛け合う言葉、まなざし、伸ばす両腕に愛が込められています。飾りのない言葉に、何度も励まされました。ありがたいことです。

『ぶどうの木』につながる一枝一枝は、さまざま実を結ぶのだと思います。小さな房でいいから、確かな実を結ぶ一枝でありたい。感謝の内に、そう祈ります。(RN)

■ God's purposes for His Church are identical to His five purposes for you. Worship helps you focus on God, fellowship helps you face life's problems, discipleship helps fortify your faith, ministry helps find your talents, and evangelism helps fulfill your mission. There is nothing else on earth like the Church!

This is what makes us the 50th anniversary a success.

Does my level of involvement in my local church demonstrate that I love and am committed to God's family? (OF)

教会に向けられている神さまの五つの意向は、同時にあなたへと向かうものだと思います。「賛美」は神さまに意識を集中させてくれ、「共同」は直面する日常の困難を助けてくれます。「使徒職」は信仰を強め、「奉仕」は自らのタレントを発見させてくれます。そして「福音宣教」は、使命を全うすることを助けてくれるのです。これらのことが成し遂げられるのは、教会より他にありません。

私たちの50周年は成功へと導かれることでしょうか。

さて、私は、自らの共同体への関わりについて自問しています。神さまの家族の一員であることを証しすることが出来るのでしょうか？

■ 「あなたがたの信仰に基づいた働き、愛に伴う苦勞、わたしの主イエズス・キリストへの希望に支えられた忍耐を、私たちの父である神のみに、絶えず思い起こしているのです。」(1テサロニケ1:3)

水島教会もそう言われるような教会であればと思います。(AH)

■ 私は、昭和27年に倉敷教会にて、ブラッセル神父様から洗礼を授けて頂きました。幼児洗礼の夫と結婚し、

一女二男を儲け、上二人も幼児洗礼です。

平成の始めに水島に帰り、水島教会の信徒となりました。家庭的な教会だと噂に聞いていまして、勤めの都合でなかなか御ミサに与ることが出来ず、与つても御ミサが済むと直ぐに家に帰るといふ有様でした。が、仕事の関係で悩む事もあり、今よりもその時の方が神様を求める力が大きかったように思います。

64歳で退職し教会生活が出来るよ

うになり、今迄教会の仕事に無縁だった私には、信徒の皆さんの活動はまぶしいものでした。手始めに教会の掃除当番の参加から、その後は会計の仕事を手伝わせて頂き現在に至っています。水島教会は子ども達の参加が多く、若いお母さん達が頑張っておられることに感心しています。

しかし、いづこも同じで若者が少なく、高齢者が増えています。会計の方から考えても収入は増えそうにありません。

「欲無ければ 一切足りる
求むる事あれば 万事窮す」
良寛

「欲しい物が無ければ、すべてが充ち足りる。何かと欲しがらるから万事に窮してしまうのだ」

私の好きな良寛の言葉です。どうか教会のことを専一に考え、教会の活動に十分な維持費の負担をよろしくお願い致します。

「キリストのように考え、キリストのように話し、キリストのように行い、キリストのように愛そう 力のかぎり」(典礼聖歌390番)

神様を信じ、皆で教会の未来に向かって、信仰を深めていきたいと思えます。(TK)

倉敷ブロック共同宣教司牧の 導入から20年

共同宣教司牧の導入

淳心会日本管区元管区長

ジヨス・バスチアン神父



1991年（平成3年）の秋頃、淳心会管区長から「翌年のご復活祭後、倉敷で新しい共同宣教司牧の試みを行うように」と頼まれました。当時、淳心会では、この共同宣教司牧が課題となっていました。つまり「**未来の教会作り**」です。理由は

1. 主任司祭があまりに教会の中心人物になり過ぎていくこと
2. 司祭がますます減っていくこと
3. 高齢の司祭ばかりとも言えること
4. 歴史の中でずっと無視されていた信徒の教会内における独自の使命があること（Iコリント12・28）

31参照）です。

これらを考えますと、信徒の養成プログラムが必要であり、そしてひとりの司祭がいずれ二つ三つの教会を受け持つことになる為、下準備が必要でした。

1992年（平成4年）5月4日、共同宣教司牧の導入は正直に言いますと、当時はあまり自信がありませんでしたが、時代が要求するものだと確信し、水島教会に赴任しました。けれども、すぐには共同宣教司牧を実行できず、共に働く神父さん方が揃ったのも一年後の秋です。

まず、司祭三人が三日間お祈りし、黙想、長い話し合いの末、目的や方法などを深く考える為に蒜山高原へ参りました。そこで主に決めたことは、各教会の信徒会長さん方と一緒に集まって互いに深く考え、話し合おうという

ことです。その後、シスターの代表の方々も招き、時々食事をしながら長時間話し合いました。

・各司祭が違う講座を担当して、それを各小教区で指導すること

・日曜日のごミサを三人の司祭が交代でお捧げすること

などが決められました。しかし、その秋、私は心臓病の為に数ヶ月お休みすることになりました。

振り返ってみますと、最初の二年間は思わぬ理由で、なかなか思い通りの運びとなりませんでした。司祭も信徒もそれぞれの考えがあり、司祭の異動も数回あり、その都度話し合う時間も多くなりました。それでも少しずつ目的に向かって前進したとは思います。また大きな実りは、司祭が他の教会の信徒と知り合うようになった事です。そして時々三つの教会が共に集うこともありました。岡山鳥取地区の集りもありましたので、益々共同体が大きくなり、他の教会から学ぶことも沢山ありました。この共同宣教司牧は、ある程度成功したとは思いますが、理想が高過ぎたのではないかとも思います。

（中略）

父なる神の祝福が皆様の上に豊かに注がれますよう、そして教会の発展のために祈ります。

（二部抜粋。全文は教会ホームページ「カト

リック水島教会50周年記念誌」に掲載されています）

ジヨス・バスチアン神父

ベルギー出身。1939年生まれ。1964年司祭叙階。翌65年（昭和40年）来日。1992年〜1999年まで倉敷ブロック共同司牧チームメンバーとして活動。現在、ベルギー在住。

●バスチアン神父様は、今年8月に司祭叙階50周年を迎えられました。金祝、おめでとうございます。



金祝での福音朗読（ルカ24・13-34）

共同宣教司牧の始まった頃

岡山・岡山南教会主任

西江 和司神父



広島教区司祭。1958年生まれ。
1992年司祭叙階。1993年〜2005年まで倉敷ブロック共同司牧チームメンバーとして活動。

10月の萩山研修の時、三末司教様(当時)の乗る公用車を大山麓まで運転したことがあります。紅葉を見せに連れて行って欲しいという事務局長の依頼で行くことになったのです。そのドライブの最中に司教様から「倉敷に行ってもらおうと思ってる」と突然言われました。さらに「共同宣教司牧というのをやっているらしいが、内容はよくわからない。」と言われました。私は司祭になって一年目でしたので、ただただ「はい、分かりました」とお答えするのみでした。

私が倉敷に行った1993年(平成9年)は、二度目のチーム編成でした。

バスチアン、故ジャン・ピエール・ムトンボ、私の三司祭とスクルース協力司祭の四名で編成された実験的な試みの強い司牧体制でした。経験したことのない司牧体制に戸惑いはありましたが、淳心会の強い意向によって、反対があろうがなかろうが関係なく、強引にでもこれを突き進めていく雰囲気。司祭達にはありました。教区司祭は私ひとり(しかも初めて)でしたので、かなりの数の信者さん達から「こんな早く止めさせて下さい」とよく言われました。その度に「将来に備えてこれを行っている。教会を末永く存続させて行く為に必要なこと」と私も答えました。

それから八年間、関わり続けることになりました。三度目のチームが作られ、淳心会神学生も来るようになり、聖体奉仕者の公的養成も行いうようになりました。在任中いくつかの問題も生じましたが、それも教会の常と受け止めるようにしていました。

倉敷を離れて九年になりますが、私も知っている信者さん達が幾人か亡く

なられています。共同宣教司牧について信徒及び司祭達からどのような評価がなされているのか知りませんが、そろそろ一度、この体制の評価、見直し、

課題の検討などを行ってもいいのではないかと思います。

益々の発展を願いつつ……

導入後20年の今

倉敷ブロック モデラトール

野中 泉神父



広島教区司祭。1958年生まれ。
1988年司祭叙階。1991年から10年間、ブラジルで活動。2010年から倉敷ブロック共同司牧チームで活動中。

共同宣教司牧を考えるとまず、イエス様が弟子を二人ずつ組にして派遣された(マルコ6・7-13)ことを思い出します。そこでは二人の弟子の共同とへ行った先の人々との共同が語られています。私たちは今、野中、バルト、金、ウイルの四人でこの倉敷ブロックを担当しています。四人それぞれ国籍も年齢も経験も違いますが、協力して動いています。三つの小教区

もそれぞれに違ってはいますが、協力しながら動いています。

イエス様は言われます。

「あなたがたに新しい掟を与える。互いに愛し合いなさい。わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合いなさい。互いに愛し合うならば、それによってあなたがたがわたしの弟子であることを、皆が知ることができる。」(ヨハネ13・34-45)

キリストを宣べ伝えるには共同は必須みたいです。

今年6月に行われた大阪教会管区の司牧者研修会のテーマは、「違いが豊かさになる共同体を求めて」(移住者と共に)です。私たち倉敷ブロックも様々な違いを乗り越えて、豊かな共同体となれますように。

献堂50周年から未来に向けて

倉敷ブロック バルト神父の講話

「さあ、立て。ここから出かけよう」

(ヨハネ14章31節)



これはイエスの言葉です。なぜこのように言ったのでしょうか？

イエスは受難の予告を弟子達にしました。事が起こる前に、前もって詳しく話したのです。弟子たちが混乱し、ばらばらにならないために遺言を遺したのです。

その内容は

○私は父の内にある。父は私の内にあり、一致している。

○私を見ているものは、父をも見る。

○理解できていなくても、弁護者(聖霊)が来て悟らせてくれるので怖がるな、と言うことです。

弟子達はイエスの受難の予告を聞き、絶望、不安、混乱、悲しみを感じました。

イエスは怖がっていた弟子達に、「さあ、立て。ここから出かけよう」と言ったのです。すべき事をするために！

水島教会はどんな教会ですか？
眠っていますか？

50周年に向けてどうしますか？

一人一人がイエスの呼びかけにどう応えますか？

水島教会には使命があります。

怖い・不安・世間は厳しい…と感ずていますか？

怖がらないで使命を果たしましょう！

皆さんは、受難の予告を聞いたばかりの弟子と同じで恐れています。

忙しい社会、安定しない家庭、安定しない日々…

聖書をよく知っているだけでは足りません。行うのです。

安心して下さい。聖霊が来ます。

信仰が消えないのは聖霊が働いているからです。

「何でも私の名によって願いなさい」とキリストは言っています。
家庭の中にキリストを伝えましょう。
周囲に伝えて行きましょう。
(2014年2月2日の講話要約)

バルト神父

サーシ・マイエンダ・バルテレミ

浄心会司祭。コンゴ民主共和国出身。

1976年生まれ。2007年来日。

2011年叙階。同年(平成23年)より倉敷ブロック共同司牧チームメンバーとして活動中。

未来を担う子どもたち

教会学校リーダー一同



50年間にいただいた多くの恵みと祝福を神様に感謝いたします。同時に力を尽くして亡くなられた方々のご冥福をお祈り申し上げます。次の世代を担う子どもたちは教会にとって大切な存在です。

私たちの教会学校は、小学生のクラスと中学生の集りがあります。隣の幼稚園の頃から通っている子どもたちも多く、小さい頃から家庭的な雰囲気の中で、仲良く神様について学んでいます。「子どもの笑顔あふれる」「一人ひとりが神様の愛を感じる」教会学校であり続けたいと願っています。

初聖体の儀式の中で子どもたちは「道に迷った時には、みんなと一緒に私たちを探しに来て下さい」と



50周年を祝いながら

韓国・釜山教区

李^イ 尚潤神父^{サンユン}



十 キリスト様の香り

私は手紙で挨拶の言葉を書く時、新約聖書で使徒パウロが言われた「キリスト様の香り」という言葉をよく使います。私たちが神様に捧げられている香りとして生きて行けるように祈りを込めるからです。この文を書く今も、皆様がそうであるように心から願います。

特に今は水島共同体の50周年を迎える期間なので、今までのあゆみを顧みながら、これからの100周年に向かって、私たちはどんな存在であれば良いかを真剣に黙想すべきだと考えます。

50周年というのはただ時間が経って迎えるものではありません。共同体で色々なことを共に見て、共に聞いて、

共に感じて、共に経験してウチのものである特徴を作り、その力を通して神様の御旨を行うこと。それが50周年を迎える私たちのお祝いだと思います。そして、私たちの先祖たちから頂いた信仰の贈り物を最も大切にして、後代の人々に渡すこと。殉教者たちが血を通して証した信仰の花を今も自分の生活の中で咲かすことができるように生きたことです。

もう水島共同体には、神様が50年をかけて私たちの畑に色々な種を蒔いて下さいました。その種をどのように成長させるかは、共同体の手に任せられています。皆様はこの種を成長させて、神様の働き手として共に収穫したくないですか。そうであるならば、今がその時期です。皆様の手を皆様のご家族に、隣人に差し伸べてキリスト様の使徒として生きて行きましょう。

最後に50周年を心から祝いながら、これから100周年に向かい、明るい心で期待します。神に感謝！
(2013年12月記)

李 尚潤神父

釜山・広島・インファンタ司教区の姉妹縁組により2007年(平成19年)に来日。2012年より倉敷ブロック共同司牧チームメンバーとして活動。2013年12月、韓国へ帰国。

祈っています。子どもたちが受けた秘跡の恵みを全信徒が祈りと愛をもって支えて行きたいです。水島教会が神様を中心とした、人々に安らぎを与える共同体となりますように。また、私たち一人ひとりが神の愛に満たされ、その愛をまず近くの人々から伝えるメッセンジャーになれるよう念じつつ。

水島教会のヴィジョン

山下 春憲

二年前に、わたしたちが水島教会創立50周年を祝う準備を始めるにあたり、神が水島教会にどのような計画と御旨をお持ちなのか語ってください。よう心を合わせて九日間の祈りをしました。

そのとき与えられた御言葉が

「わたしが来たのは地上に火を投ずるためである。その火が燃えていたらとどんなに願っていることか。」(ルカ12:49)でした。イエス様の熱い思



教会の宝 子どもたち

いが伝わってきます。イエス様は十字架の死と復活によってわたしたちの罪を贖い、神の子としてくださいました。聖霊を与えてイエスの命を与えてくださいました。本当に驚くべきことです。ご自分の御体と御血である聖体を与えてくださいました。聖体こそイエス様の燃えたる愛の炎です。聖体を拝領するごとに聖霊に満たされ、イエス様の愛の火でもやされるのです。わたしたちがイエスに変容され、聖体となつて、その十字架の愛の火をまわりに伝えるためです。

「さあ、立て。ここから出かけよう」。

編集後記

吉浦
武志

教会史の作成にあたり教会日誌を参照し記事を抽出しました。教会日誌は献堂から現在まで毎週のように記事が残されています。地味な作業で一般には知られていない作業ですが、水島教会の貴重な記憶です。50周年を迎えられたのは、神父様、シスター、役員、熱い信仰だけでなく、ミサの準備、行事の準備、聖堂の掃除、教会の維持管理等で人知れず支えて下さった信徒の協力があったからだと思えます。有難う。これからも宜しくお願いします。

濱村
清作

50年という私と同じ程の年月を経た水島教会を、自分の生い立ちと重ねてみました。誕生し、たくさんの人々の手を借りて育まれ、いろいろな思いと希望が現在まで続いています。そんな気持ちで教会を見回すと、先人たちの息吹を感じ取れる様な気がします。『温故知新』私達は、これまで教会が積み重ねてきた成長の証を、子どもたちの未来へ手渡して行かなければなりません。年表には一部しか掲載されていませんが、これらに倣い、力として頑張りたいと思います。

三宅
哲子

50周年記念誌の編集に携わらせて頂いて、水島教会の生い立ちを初めて知りました。初代主任司祭スメット神父様の「私の死後、このアルバムを水島教会に送ってください」と書かれた、古いアルバムを目にした感動は忘れられません。この地で、ご自分の人生を掛けて福音を伝えて下さった歴代の神父様方の熱い思い、又先輩信徒の方々の教会を守り育てて下さった種々の献身に答えるためにも、水島教会が神様の愛を証する教会であり続けるよう、皆様と共に頑張りたいと思います。

小野
久美子

印刷を請け負って下さった(株)セイキの北山社長には導かれて出会うことが出来ました。「スメット神父様をご存知ですか？」と問われ、「はい、水島教会の初代司祭です」と。例えば、神父様に高校時代に出会い、大きな影響を受け現在に至るとのこと。キリストの香りは、水島教会と同じく未信徒の方の内にも50年間香り続けています。編集を通して、その強さを改めて感じます。記念誌作成にあたり、ご協力下さった多くの方々に感謝いたします。

※記念誌作成にあたり大勢の信徒が資料準備にあたりました。
歴代司祭のインタビューは山下春恵、山下弥栄子、永山陽子、井垣まき子がしました。

編集前に依頼した原稿をすべてこの冊子に、掲載することが出来ませんでした。掲載されていない全文および他の寄稿文も「カトリック水島教会」ホームページで、見ることができます。

編集委員

カトリック水島教会50周年記念誌

発行日 平成26年10月

発行所 カトリック水島教会
〒712-8032 倉敷市北畝2丁目17番36号
Tel (086) 455-5718 Fax (086) 455-8654
URL <http://www7.ocn.ne.jp/~mizucath/>

印刷 株式会社 セイキ
〒700-0851 岡山市北区七日市西町7番51-3号
Tel (086) 223-1438 Fax (086) 223-1495
URL <http://www.seiki-co.com>
E-mail www@seiki-co.com

